

地域支援だより

きらりNet



令和7年3月10日

第146号

秋田県立秋田きらり支援学校

地域支援部

今年度もセンター的機能の一つとして、多くの肢体不自由及び病弱・身体虚弱特別支援学校を訪問しました。児童生徒の実態や願いを基に、教室環境、教材研究、校内連携、授業実践など工夫された取組がたくさんありました。本稿では特別支援学級の取組を紹介します。

大館市立第一中学校の自立活動の実践～風船バレー大会を開こう～

<生徒>

- ・Aさん：1年生。車いすを使用。上肢の可動域が狭いものの、**体を動かす遊びを好む。**
- ・慣れない相手とのコミュニケーション、特に**声に出して相手に伝えることが苦手**である。
- ・1学期はボッチャ大会を開催し、教員を招待してルール説明などを行った。

<本単元のねらい>

- (1)身体を動かす範囲を広げて身体機能の維持を図ること
- (2)教員を招待し、説明や作戦立てなどの活動を通して、人との関わりやコミュニケーションの楽しさを実感すること

<授業の実際>



Aさんを中心に目標や作戦タイムの時間を設定。



Aさんの身体の動きに合わせた特別ルール。多くの教員が参加し、白熱のゲーム！

<授業を振り返って>

- ・「コミュニケーションを図る」プレッシャーではなく、「風船バレー大会を楽しみたい。自分のチームが勝ちたい。」という気持ちから、**必然的に**チームメイトの先生達と笑顔でやり取りをするAさんの姿がありました。
- ・本時の効果的な支援を紹介します。

- ・**Aさんの興味関心**を生かして困難さの克服に取り組んでいる。
- ・**スモールステップの目標設定**。関わりの広がりよりも、慣れ始めている教員との関わりを深めることをねらった。
- ・チームメイトの教員は、作戦タイムの中で「どこに風船を上げれば打ちやすい？」などとAさんが**答えやすい**発問をする。
- ・Aさんの振り返り：「プレー中の声掛けができるようになった」「声を大きくして声掛けをしたい」→ゲームで勝ちたい**目的が言動に表れている**。

<単元後のAさんの変容>

- ・学年を超えてコミュニケーションをとれる先生が増えました。
- ・先生方を誘うとき、以前なら担任が側にいることが多かったのですが、最近はある程度一人で声を掛けられるようになりました。

学校全体でAさんを支援育てていく雰囲気
に感銘を受けました。担任の高橋来夢先生
ありがとうございました。

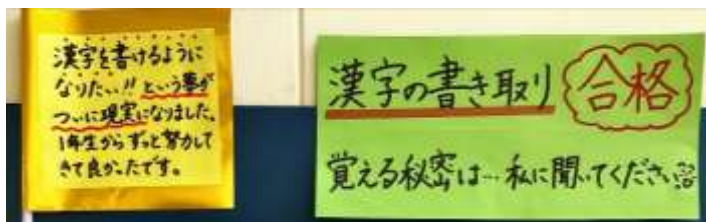
(文責：藤原恵理子)

実践紹介

漢字を覚える『私の秘密』を教えます！



県内の小中学校を訪問する中で、「漢字の形が上手く書けない」「漢字を覚えるのが苦手」という悩みを聞くことがあります。本校の小学部6年生のBさんが廊下にこのような掲示をしていたので、さっそく本人に「秘密」を聞いてみました。



Q：漢字を書けるようになりたいと思ったのはなぜですか？



パソコンを使うことが多くなったけど、書くことも多いです。将来ちゃんと仕事ができるようになりたいと思ったからです。

Q：どんな方法で学習したのですか？



部首ごとに分けている漢字カードを3回ずつ口に出して読んで覚え、頭の中で漢字を組み立てます。3回唱えたらワークに5回練習します。

Q：力がついてきたという実感はありましたか？



覚える力がついたと思います。以前はテストで空欄が多かったけど、練習を積み重ねて書けるようになりました。

Q：これからの目標はありますか？



漢字カードを使わずに、自分で部首を分けて覚えたいです。

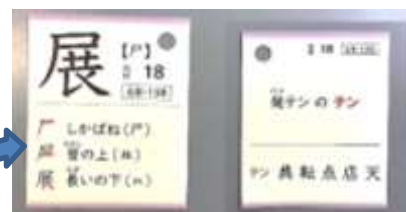


美しい文字です！

～担任の先生より～

Bさんは言葉で話したり覚えたりすることが得意です。たくさん書きすぎると疲れてしまうので、**Bさんの長所を生かし**「3回音読→5回練習」という方法を繰り返しました。**使っている教材は、『ミチムラ式漢字カード』(光村図書版)**です。授業の中では、カードを画像に取り込み、**ロイロノート**で示しています。そうすることで、カードをめくる時間が短縮されます。

「きれいに書ける→漢字が楽しい→喜んでワークに取り組む」姿が見られ、Bさんの成長を感じます。これからのBさんが楽しみです！



ミチムラ式漢字カード
ここを音読



専門監のつぶやき



肢体不自由のある児童生徒の中には、見え方や視覚情報の処理に困難さを感じるケースが少なくありません。本事例は、Bさんの願いを基にした取組です。Bさんの、**話したり記憶したりすることが得意だという長所を生かした学習法**により、成功体験を重ね、インタビューでもBさんの声は自信に満ちていました！中学生になったら自分で覚えたいと話していたので、中1

で習う「恵」はどう覚えるか突然尋ねてみました。すると、少し考えてから「一(いち)、自由の由、心、です」と答えました。担任の先生も「私も同じこと考えていました!」と。Bさんは、これまで漢字カードで学んだ部首を活用して答えていたのです。**自分の長所を自分で知って学ぶ**Bさんの姿はキラキラしています。

目指せステキな中学生！ (藤原恵理子)